

『専門日本語教育研究』第24号 論文賞

「クラウドソーシングの発注文書における業務内容指示の言語表現

—「ください」「いただきます」を中心に—

田中 啓行（中央学院大学）

〔授賞理由〕

従来、ビジネス文書は企業内、企業間でやりとりされる電子メールの文章や稟議書、報告書など定型的文章の作成が中心であった。しかしながら、ICT（情報通信技術）の発展やテレワーク環境の整備により、企業などが不特定多数のワーカーに業務を発注するクラウドソーシングという一つのビジネスモデルができあがった。企業が個人（ワーカー）と直接やりとりをするという新しい関係が現れたことを受け、企業は発注文書の形式や内容に関心を持つようになってきたと考えられる。

こうした背景を踏まえ、本論文では、データベース化された、3万件弱のクラウドソーシングの発注文書を対象に、「ください」と「いただきます/いただきたいです」を含む文書について、正例・負例の基準を設け、正例の割合が分析されている。そこでは、「全体的傾向」、「前接する動詞の語種（和語、漢語）」、「個別の動詞」という観点から正例と負例の数が出され、それらの割合や傾向が示されている。こうした分析手法は手堅く、読者にとってとても理解しやすいものとなっている。

データ分析という手法が導いた興味深い例として、一部、敬語の正しい使い方として避けなければならない、丁寧さを欠く表現の用例数が意外に多いという結果が出たこと、ひらがな表記と漢字表記の違いによる差は少なく、影響はほぼないということが挙げられる。こうした気づきは重要であるが、多くのデータ結果を前にすると見過ごしがちである。本論文は細部にも目配りをしながら、緻密に分析を進めている。最後に、これまでの日本語教育の命令・指示表現の知見を確認しながら、分析結果が考察され、簡潔にまとめられている。

本論文は、大量の文書データを使用して、用例が分析された点で新規性があり、今後ほかの用例の分析にもつながっていくことが期待できる点で発展性があると評価できる。以上のことから、本論文を専門日本語教育学会論文賞の受賞対象論文としてふさわしいものと判定した。

論文賞受賞に際しての所感

田中 啓行

専門日本語教育学会論文賞の第1回受賞者にお選びいただき、大変光栄に存じます。編集委員会の先生方、ご査読いただいた先生方をはじめ、専門日本語教育学会の先生方に感謝申し上げます。また、本論文は、国立国語研究所の石黒圭先生と石黒班の皆さん、富士通株式会社の皆さんを中心としたプロジェクトの研究成果です。プロジェクトの皆さんの力がなければ、本論文をまとめることはできませんでした。ここに記して、感謝申し上げます。働き方の多様化が進む中で、クラウドソーシングのように、文章での仕事上のやり取りは増えていくと思います。一方で、最近では、Chat GPTなど人工知能が産出する文章が話題になっており、文章を書くという行為自体が変わっていく可能性もあります。しかし、文章を書く方法が変わったとしても、読み手は人であり、読み手を想定して書くことができる力は求められていくと思います。受賞を励みに、文章を書く力を伸ばすことに資する研究成果が出せるよう精進して参ります。このたびは誠にありがとうございました。

『専門日本語教育研究』第24号 論文賞

「医療現場における業界用語の機能 —看護業務上の使用意義の追究—」
ポポヴァ エカテリーナ（大阪大学大学院生）

〔授賞理由〕

本論文は、医療現場における業界用語の機能およびその看護業務上の使用意義について現職の看護師 20 名へのインタビュー調査から明らかにしたものである。

医療現場で就労する外国人看護師、介護職員の増加を背景に、日本語教育の観点から医療系の専門用語を対象とした研究はこれまでもあるが、「業界用語」を研究対象としたのは筆者独自の着眼点であると言える。

本論文は、現場で用いられる業界用語の用途を現職の看護師に丁寧に聞き取り分類し、業界用語は、①情報伝達の効率化、②秘密保持・秘匿、③婉曲化、④ユーモア表出、という4つの機能があり、「医療現場の共通言語として看護業務の効率化を促しつつ、業務上の心理的負担の予防・軽減にも繋がる」としている。これらはどれも看護師という職業上の必要性から来るもので、それらの機能に関する説明を通して、実際の看護師のリアルな働き方が垣間見える。特に④ユーモア表出という機能を明らかにした点が、本論文の新規性を感じさせるが、同時に、読者に医療現場での業界用語の生き生きとした実態を感じさせるものとなっている。外国人看護師も、このインタビューの看護師たちと同じ医療現場に身を置き、勤務することになる。その意味でも、業界用語習得に向けた学習支援が重要となってくると言える。

現場によって異なりが大きいであろう業界用語のうち、日本語教育において何をどのように扱うかということを含め、発展性のあるテーマであり、今後の進展が期待される。

以上のことから、本論文を、専門日本語教育学会論文賞の授賞対象論文としてふさわしいものと判定した。

受賞に関する所感

ポポヴァ エカテリーナ

この度は名誉ある論文賞をいただき、大変光栄に思っております。大阪大学大学院言語文化研究科の先生方やゼミの皆さん、また調査にご協力くださった看護師の方々に深く感謝申し上げます。本研究は、医療現場における業界用語の機能およびその看護業務上の使用意義について明らかにし、外国人看護師向けの日本語教育の観点から考察を試みたものです。業界用語は医療現場の共通言語として看護業務の効率化を促しつつ、その現場ならではの習慣など文化的な要素も表象していますが、本論文でもその一端にしか光を当てておらず、業界用語が特に理解が困難だと考えられる外国人看護師向けの日本語教育で導入するための一助となるよう今後も研究を続けていきたいです。本論文の執筆にあたって、専門日本語教育学会の研究討論会や、論文査読時に貴重なコメントをいただいたおかげで議論を深めることができ、大変勉強になりました。査読者、編集委員、会員の皆様に心より感謝申し上げます。